



学校だより
第39号

野 菊



福島市立吉井田小学校 令和3年3月22日発行

明日 旅立ちの日を迎えます！



写真は、予行練習時の式場です。

学校行事の中で、最も節目となる行事「卒業証書授与式」が、いよいよ明日行われます。

1年のはじめの行事は「入学式」。歩く姿も、立っている姿もかわいい新入児。「はい」という返事にも笑みがこぼれるあたたかな式です。

一方、小学校生活のまとめになる「卒業式」は、学校の主役として活躍した6年生を、希望や夢をもち、より飛躍できるように送り出す厳粛な式であります。そのために、在校生と教職員ができるのは、感謝という心を表すということです。先日行われた予行練習でも、教務主任の佐久間先生を中心に、在校生代表児童、教職員、心一つに取り組みました。

もう一つ、式を支えるのは会場。今年度は、在校生の参加は、代表のみとなりましたが、先

日の6年生を送る会で在校生が心を込めて作った飾りが卒業生を見守ることになりました。式に、参加できなくても心は一つ。吉井田小学校全児童で、卒業生71名の門出を祝福したいと思います。

準備万全。6年間汗を流した体育館が、新型コロナウイルス禍の中でも最高のがんばりを見せた最高のヒーローを待っています！



児童昇降口の卒業生へのメッセージコーナーです。入学式と6年生を送る会でのクラス集合写真が掲示されています。

感恩報謝



校長室から見える校庭の木々や花壇。近寄

ってよく見ると桜のつぼみが膨らみ始めていたり、中庭のスイセンやパンジーの花も咲き始めていたりします。転勤したばかりの昨春、コロナ禍であってもきれいに咲き誇っている桜の花を見て勇気付けられたことを思い出しました。

また、1年教室前の、植木鉢に植えられたチューリップ、ヒヤシンス、クロッカスも元気に学ぶ子どもたちのように、葉をめいっぱい伸ばし始め、花も開き始めました。私たちが皆まっている春は、もうすぐです。

今日は、3月22日（月）。困惑の令和2年度も明日を残すだけになりました。昨年度の4月1日に、この吉井田小学校に着任した私も、間もなく1年が経とうとしています。

私は、教員になって今年度末で37年、10回の転勤を経験してきました。初任地は、船引町立移小学校（現在の田村市立緑小学校）。その後、瀬上小学校、川俣町立川俣小学校、福島第三小学校。その後、教頭としていわき市立桶売小学校、土湯小学校、大森小学校、福島第一小学校。ここから校長としていわき市立勿来第二小学校、矢野目小学校、そして現在に至っています。市町村毎の勤務年数は、福島市24年、川俣町5年、いわき市5年、田村市（元船引町）3年です。（保護者の中には、私が担任した方やお子さんを担任もしくは、同じ学校にいた方もいます。教職員の中にも。）いずれの転勤でも異動した1年目は、1年間の流れや具体的な部分での取り組みがわからず、周りに迷惑ばかりかけていました。また、学校や地域に

より独自の取り組みもたくさんありますから、この先どうなるのか、日々おそろおそろ勤めていました。今回の転勤も同じでした。それが間もなく令和2年度という1年間が完結します。ようやく、本校の1年間が見通せます。何か、やっと吉井田小学校の職員になれたような気さえします。

そうした日々を過ごす中、この「学校だより『野菊』」を発行してまいりました。内容は乱雑無償でばらつきがあり、文の推敲も不十分。加えて誤字脱字。読むに堪えないものも多かったのではと思い反省しています。自分で読み返して恥ずかしい限りであります。

ただ、自分で足を運び、自分で見て、自分で聞いて、ふれて、時には、においをかいだり味わってつかんだ子どもや学校の姿を、学校の目標というフィルターにそってお伝えすることだけは大切にしてきたつもりです。

これからも、細々ながらも地道に発行していけたらと思います。1年間大変お世話になりました。ありがとうございました。今後ともよろしくをお願いします。

トピックス

最後のお願い

「年々歳々花相い似たり、
歳々年々人同じからず」

毎年花は同じように咲きますが、この時期、人の顔ぶれは毎年かわります。

卒業と入学の時期、学校も同じです。この時期だからこそ、子どもたちに対して指導できる（感じさせることのできる）ことがあると考え、3月の教育活動を進めてまいりました。それは“自分の成長を見つめること”“自分を支えてくれる方々に感謝すること”“次の目標をしっかりとつこと”です。ただ、それは学校だけでは完結しません。最後は、ご家庭での一言「がんばったね。」です。それが来年咲く花が、より大きな花、鮮やかな花になるための大事な栄養になります。お子さんへの一言、明日通知表を見た後、よろしくお願いします。